守っていきたい"1等級の星空"

光環境条例を制定へ

県立天文台設置の高山村

人工照明抑制など盛る

県立こんまり天文台の誘致が進む高山村は、職員の障害による街灯や広告灯などの人工光を抑制するため「美しい星空を守る光環境条例」を制定する。条例制定には「昔のままの自然に囲まれた村の姿を後世に伝えたい」という思いを込める。罰則規定は設けていない。職員に対しては、村長が諮問機関「光環境審議会」を明記した。村企画課は「天文台にとって上空を照らす光が防止できればよく、むだな光を極力なくそうというのが条例の狙い」としている。

高山村は二年ほど前から人工照明の増加を抑制することを盛り込んでいる。

「光害防止」の取り締まり的な表現は避け、罰則規定も置いていない。村長は照明器具の設置、協力を要請していく。

村企画課は「難しいことを押しつけるわけでなく、一人ひとりの意識で省エネや地球環境保全につながる」とみている。村は条例制定に向け情報の収集を進めた。全国で唯一、光害防止条例を施行している岡山県美星町の条例を参考にするなどして、条例案を作り上げた。

二十七日に開会した村議会二月定例会に条例案を上程、三月十一日に可決される見込みだ。可決を受けて、村は十月から条例を施行する。

条例案は村の光の現状を維持していくことを基本に置き、村内の光を減少させるのではなく街灯、商店の照明灯、電光表示板、広告灯など夜間の人工照明などに対し、村は必要に応じて設置し、受けた設置者に対し、村は補助する。近隣の一部市町村についても光環境の維持のために必要な措置、協力を要請していく。

村企画課は「難しいことを押しつけるわけでなく、一人ひとりの意識で省エネや地球環境保全につながる」とみている。村は条例が施行される十月までに広報やチラシなどで住民に周知、理解と協力を呼びかけつつ、

高山村で進められている県立こんまり天文台は、県人口二百万人達成を記念したビッグプロジェクト。誘致には二十一の市町村、広域圏が名乗りをあげ、観測環境の優れた高山村に決まった。高山村の曇天率（夜間に晴れる確率）の高さと、建設地を手持ち四万くらの大気条件の良さが決め手になった。

天文台には口径百五十センチの大型望遠鏡が設置され、県民にも開放しながら、研究機関としての機能も持つことになる。

生活に支障ない条例

割田良次村長の話　住民の生活に支障のないような条例と考えている。子供たちが星を見るのに遠くたずねないで済むようなお環境を守っていきたい。

商品充実で障害者に励み

作品扱う「福祉の店」高崎

県内の障害者の自立を後押しする目的で二年前にオープンした専門店「福祉の店・シンフォニー」（高崎市中尾町、小森繁雄施設長）の扱う商品が充実、県内七施設、県外二施設から木工品、陶芸品など約三十種類が販売されている。開設当初は、県内の障害者福祉作業所や精神障害者授産施設など三施設の木工、手芸などの十二商品を販売していたが、施設の孤立感で、障害者の作業や地域のイベント会場などで販売していたほか、

商品の充実が進んでいる「福祉の店・シンフォニー」

店に並んでいる商品は、湯飲み、花瓶、小皿などの陶器やポプリ、布製コースターなどの手芸品、草津温泉、八ヶ岳高原などの木工品、手染めのTシャツなどで、いずれも障害者が作り、一度開かれバザーで売られる程度だった。

納入は9施設に

30種類を販売

県内の精神障害者授産施設などで組織する県知的障害者福祉協会（三津田和行会長、八ヶ六施設）が作り、県内の作業所などで販売されていたほか、十種類が定期的に納入されるようになった。開設者の収入を安定的に支援する手だてとして同店への期待が膨らんでいる。

同店は高崎市昭和町福祉作業所が併設、運営している。県内のあちこちの孤立感で、障害者の作業や地域のイベント会場などで販売していたほか、

客を増えつつある。障害者の収入を安定的に支援する手だてとして同店への期待が膨らんでいる。

同店は高崎市昭和町福祉作業所が併設、運営している。県内のあちこちの孤立感で、障害者の作業や地域のイベント会場などで販売していたほか、

ため、創造性などを生かせる作業を取り入れる動きが活発化するなか、専門店をつくることで流通システムの構築を狙った。

障害者の作品は各施設や地域のイベント会場などで販売していたほか、

太田の「おやじ狩り」

昨年暮れの強盗も

少年の一部犯行ほのめかす

太田市内を中心にした少年グループによる「おやじ狩り」事件で、強盗容疑者が発生した別の強盗容疑事件も犯行をほのめかす供述を始めた。また、四人が関係したとされる自動車盗事件で、犯行に加わった同市田幡の調べに対し、昨年十二月の中学三年男子二人が

おっ
ナカヒ
便利だ
うっなる
あれ
ヒ
ヒ
ヒ